

島でねばる 地域づくり

江田島市能美町

「島でねばる」を実現するワーキングチームを結成

みどころ！

◇高齢過疎の島の暮らし。今後、高齢になっても、要介護になっても在宅生活を実現するために、江田島市の在宅医療・介護の充実促進をすすめ、在宅生活をあきらめさせない、文字通り、島の中で粘り強く暮らすための支援体制を構築することをめざす。

地域概要

総人口 26,045 人

65 歳以上人口 10,107 人 (38.8%)

75 歳以上人口 5,532 人 (21.2%)

(平成 26 年住民基本台帳)

実施主体

江田島市社会福祉協議会

大谷リハビリテーション病院

江田島市老人福祉施設等連絡協議会

江田島市介護支援専門員連絡協議会

瀬戸内海の広島湾にある島を市域とする江田島市は、平成 16 年に江田島町、大柿町、沖美町、能美町の 4 町で新設合併した。呉市とは橋でつながり、広島市までフェリーで 30 分という地の利から、周辺市町との交流が日常的にある。戦前より日本海軍の拠点で、現在も海上自衛隊幹部候補生学校や第 1 術科学校、江田島基地などを抱える。とりわけ、人口減少と高齢化が県内でも懸念されるが、従来からの地元住民と市の I ターン促進策等による定住者が混在し、温暖で自然豊かな穏やかな在宅生活を営む。

地域包括支援センターの活動紹介

【体制】

市直営にて運営。保健師 2 人（主任介護支援専門員兼務）、社会福祉士 1 人が従事。

【活動】

運営協議会は年 1 回開催。江田島市の H P で広報活動を実施する。認知症サポーター養成研修の実施、ふれあいサロン運営支援、介護予防リハビリ教室などに、積極的に取り組む。

取組の背景と課題認識

江田島市の後期高齢化率は県内で 7 位 (21.2%) と高く、医療リスクの高い住民が急増している。人口 10 万人あたりの病院・一般診療所数 (10 万人対) をみると 4 病院 (16.1)、24 診療所 (96.6) と県平均 (8.7 病院、92.7 施設) より多く充実している。また、施設・居住系サービス (要介護 3 以上) の割合が 53.7% で県平均 44.0% に比べて高いことから入所希望が多い。軽度のショートステイの利用も増えている。これらのことから、住民の意識は施設ケアに偏り気味ではないかとの懸念が関係者の間にあった。急性期には広島市や呉市の医療機関を利用するのを機に、在宅生活を断念する傾向を改善するために、関係多職種による取組を開始した。

取組の内容

【1】「島でねばる」ワーキングチーム結成

平成 24 年 4 月の介護保険改正により在宅医療、介護の方向が示され医療・福祉・介護の連携の強化と市独自の地域包括ケアシステム構築が義務付けられた。高齢になっても、心身に障がいがあっても、寝たきりになっても、島の中で暮らし続けたいという市民の思いを現実にする必要がある。そのためには市民への意識啓発と専門職の在宅介護の限界点を上げる意識付けも推進しなければならないと考え、江田島市の地域包括ケアシステム構築のビジョンである市民・専門職・多職種の連携を皆で支え合うという考えを基本に「島でねばる」の実現に向けてワーキングチームを立ち上げた。

①「島でねばる」チーム

月 1 回以上のミーティングを開催 課題検討実施

メンバー：行政、地域包括支援センター、社会福祉協議会、福祉施設、病院より計 12 人

②地域包括支援センターが「島でねばる」チームの事務局として、介護医療関係と行政、社協等との連携、情報の収集の役割を担う。

【2】市民への啓発活動

市民対象の啓発講演会を開催

現状の江田島市と今後の市の見通しを学びあい、あるべき在宅生活を理解する



多職種連携推進研修会「島でねばる」





取組の経緯

平成 24 年 10 月	推進センターの多職種連携モデル事業で、退院時、在宅時等のケアカンファレンス 9 例実施 多職種連携研修会（シンポジウム、グループワーク）開催
平成 25 年	「島でねばる」ワーキングチーム結成
平成 25 年 11 月	モデルカンファレンス実施
12 月	多職種連携推進フォーラム開催
平成 26 年 2 月	多職種連携研修会 シンポジウム「安心して在宅医療を選択できるシステムづくり」 多職種による研究発表会
平成 27 年 3 月	啓発講演会「データから見る江田島市の姿」開催

取組の成果・今後の課題と展望

◆成果◆

- ①「島でねばる」というキャッチコピーや各推進事業によって、行政、関係機関相互が在宅医療の充実した住みよい地域づくりを目指すという方向性を確認した。
- ②啓発活動などにより、地域活動や見守りなどのボランティアへの参加が増えた。地域包括ケアの理解やそれにとまなう住民の主体性が促進した。

◆課題と展望◆

リハビリ資源が比較的多いという特性を活かし、介護職員の身体介護のステップアップ等を図るとともに、生活支援・見守りなどの分野は民間・住民の力を活用することでマンパワーの不足を補うための取組をさらに推進する必要がある。また、医療介護連携において、医療機関とケアマネジャーとの連携づくりにも課題がある（以上、広島県「呉圏域における在宅医療推進体制にかかる調査検討より」）。家族への啓発は、独居生活の増加もふまえ、今後も継続して取り組みたい。

取組のポイント、機能強化ポイント

市行政の推進計画と連動した共通したテーマ「島でねばる」をスローガンにし、関係多職種、住民が方向性を共通認識しながら地域づくりを目指している。また、在宅ケアを担う地域包括支援センターと、地域福祉を担う社会福祉協議会が日ごろから連絡をとりあい、センター長と社協担当者相互がリーダーシップを発揮する。直営包括と、地域福祉活動の実績ある社協というタッグを組むことによって相乗効果が得られている。

連絡先

江田島市地域包括支援センター	0823-40-3571	担当：池田由美子
広島県地域包括ケア推進センター	082-254-1166	
広島県健康福祉局地域包括ケア・高齢者支援課	082-513-3198	

